



# タイ 中進国の模索

末廣 昭

210781165 牧野麗



# ◀ 目次 ▶

1. 中進国となった工業国タイの問題
2. タクシン元首相によるグローバル資本主義
3. タイ国を支える3つの柱は「民族・宗教・王制」
4. 「現代化への道」と「社会的公正の道」

# ≪目次≫

1. 中進国となった工業国タイの問題
2. タクシン元首相によるグローバル資本主義
3. タイ国を支える3つの柱は「民族・宗教・王制」
4. 「現代化への道」と「社会的公正の道」

中進国となった工業国タイの問題とは、

「米国が主導する  
グローバル資本主義にいかに対応するか」



という課題に対する**2**つの解答間のせめぎあいが行われていることである。

# 1つ目!!

- ▶ タクシン元首相による積極的な  
アングロサクソン流のグローバル資本主義



タクシン元首相



プーミポン国王

# 2つ目!!

- ▶ プーミポン国王が提唱する  
オルタナティブ資本主義 『足るを知る経済』

# ◀ 目次 ▶

1. 中進国となった工業国タイの問題
2. タクシン元首相によるグローバル資本主義
3. タイ国を支える3つの柱は「民族・宗教・王制」
4. 「現代化への道」と「社会的公正の道」

# タクシン元首相

タクシンが積極的に推進した変革は、  
ある意味でタイを日本以上に  
アメリカナイズされた社会に変貌させた。

しかし！

タクシンが実行した経済社会改革が  
あまりにも急進的であったため、  
タイ国民は正直言って疲れてしまった、  
というのが実情であろう。

これが2006年のクーデターが国民に受け入れられた背景にあるとも考えられる。



~~「微笑みの国」~~  
= 「タイ」

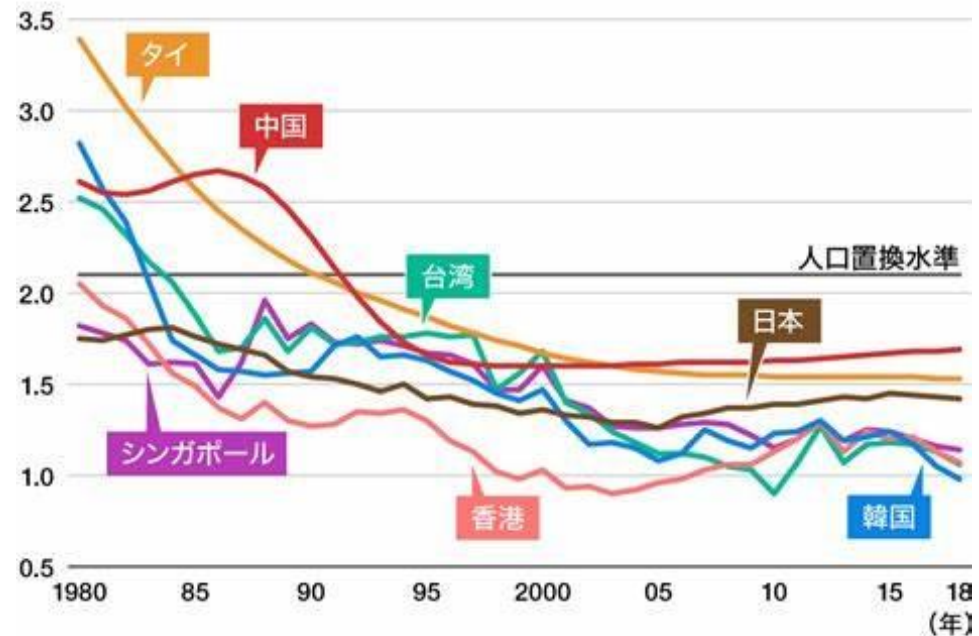




**日本を上回るスピードで急速に変化を遂げているタイ社会には、  
先進国日本がすでに経験済みの社会問題もあれば  
少子高齢化というまさにいま直面している問題もある。**

**また、タイ特有の問題もあり、  
先進国日本の経験で、  
中進国タイが抱える問題すべてを  
押し量ることはできないのだ。**

アジアの国・地域の合計特殊出生率の推移



出所：世銀、台湾は内政部統計

# ≪目次≫

1. 中進国となった工業国タイの問題
2. タクシン元首相によるグローバル資本主義
3. タイ国を支える3つの柱は「民族・宗教・王制」
4. 「現代化への道」と「社会的公正の道」

プーミポン国王



タイ国を支える3つの柱は  
**「民族・宗教・王制」**

# プーミポン国王

プーミポン国王は1988年にそれまでタイで最長を誇っていたラーマ5世王（チュラーロンコン大王）の  
在位42年間の記録を更新する。

2006年6月には、  
世界最長の「国王在位60年」という  
栄誉を達成した。

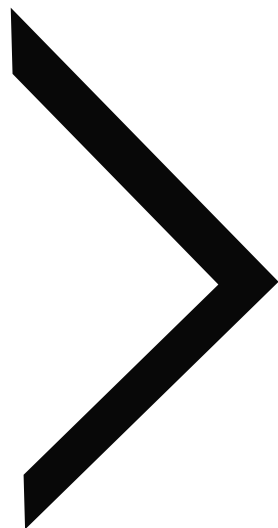
この記念式典には、世界26か国の王族がバンコクに参集し、チットラダー宮殿で盛大な祝賀会が開催された。



実際、プーミポン国王は、  
若い時期には年間20回を超える地方巡幸をこなし、  
「タイ民族とは仏教に帰依し国王を崇敬する人々」  
という信条を創出していった。

また、プーミポン国王は、ジャズ、カメラ、ヨットレースをこよなく愛する人として、国民の間で親しまれている。

国王が金曜日に主催する  
ジャズコンサートの様子を書いた本が、  
『ハリーポッター』（タイ語訳）を抑えて  
ベストセラーのトップになる国は、タイ以外にないだろう。



このことは、

**国王の威信が国王のパーソナリティと不可分の関係にあることを示唆する。**

しかし！

国王の威信が国王の個人的なパーソナリティと強く結びつくと、王制にとって**新たな課題**が生じる。

それは、、、

## 国王に対抗する強烈なパーソナリティをもった 指導者や「強い首相」が登場した」場合

- ▶ 実際、タクシン元首相の挑戦がそれであった。  
彼は王制よりは世界資本主義が  
タイ社会の将来を規定する、と考えた。





- ▶ 市場原理に帰依し、タクシンを崇敬する人々を国民と捉えた

「民族・~~宗教~~・~~王制~~」



「民族・**世界資本主義**・**強い首相**」

# ◀ 目次 ▶

1. 中進国となった工業国タイの問題
2. タクシン元首相によるグローバル資本主義
3. タイ国を支える3つの柱は「民族・宗教・王制」
4. 「現代化への道」と「社会的公正の道」

# 著者が伝えたいこと

- 中進国化したタイにとっての選択の道は2つある。
- 第一は、伝統的な社会制度・組織（王制や仏教）を強化し、タイの価値意識を尊重する「社会的公正の道」である。
- 第二は、伝統的な社会制度・組織を改革し、価値意識も変えていく「現代化への道」である。
- どちらも、グローバル化、経済の自由化、IT改革の進展という新しい国際環境への対応という点では間違いない。

# タイは未成熟な中進国社会

行政改革、産業構造の高度化と雇用対策、  
大都市と地方の関係の是正、環境問題への対応、  
高齢化対策、福祉戦略、教育対策など。



さらなる発展を遂げるためには、  
**避けて通ることのできない課題！**

強いリーダーシップと企業アプローチで取り組み、  
「デュアル・トラック政策」と行政改革を軸に、  
「国の改造」を図ろうとした。



タクシン元首相



しかし！

タイ人には、**あまりにも極端で、  
急すぎた改革**であった。

それがゆえに、**失敗**した。

一方で、

「**国王を元首とする政治**」と「**足るを知る経済**」

が、

中進国化したタイの社会問題を解決し

経済の安定をもたらすともいえない。



慈悲と恩情、道徳と倫理だけでは、

問題を解決できないから。

プーミポン国王





じゃあ、  
どうする？

政治は月並みではあるが、

**「選挙に基づく政治」**に戻す。

- **司法の過剰な介入は抑制**する。
- **総選挙を速やかに実施し、有権者の選択に任せる。**
- 「選挙に基づく政治」をどういう方向にもっていくのかは、柔軟性に富む国民が決めるだろう。



経済の運営は、

「テクノクラート」に戻す。

ただし、従来の公務員制度では、多様化し複雑化したタイの問題を乗り切ることにはできない。

- 一方では**経済のサービス化・情報化を推進**しながら。
- 他方では**「森・水・土地」を守る政策も推進**しなければならない。
- 貧困問題だけではなく、**情報格差の是正、教育と労働市場のミスマッチの解消、高齢者問題への対応**なども進めていかなければならない。

したがって、  
多様な問題に取り組む、  
多様な人材の育成が不可欠となる。

そのためには、  
タクシン元首相が導入しようとした  
「行政改革」や「予算制度改革」は、  
避けて通ることはできない。



**これらを踏まえた結果、、、**

# 結論

**「現代化への道」と「社会的公正の道」を  
折衷したもの**

- 時代の流れに柔軟に対応し、バランス感覚を大切にするタイの人々にとっては、もっとも現実的な道だといえる。



ขอขอบคุณสำหรับความสนใจของคุณ

**ご清聴ありがとうございました！**